

# 我孫子市立湖北台東小学校

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 結果分析, 指導改善のポイント



#### <国語の調査結果に見られる特徴と現状>

国語 A(主として知識)について, 県, 全国の平均値より, やや劣る。漢字の読み, 書きについては, ほぼ平均値である。学年漢字テストや漢字検定など, 比較的成果がわかりやすいものに関しては, 意欲が高く, 理解している児童が多いと考えられる。

国語 B(主として活用)について, 県, 全国の平均値より劣っている。記述式の問題は低い。目的に応じて内容を押さえ, 自分の考えを明確にして書く設問では低く, 無回答率が多い。十分に自分の考えを書くことについて力がついていないことが考えられる。また, 記述式の問題では, 時間をかけて書く児童も多いことから, 最後まで問題に到達できていない児童もいることが考えられる。

#### <算数の調査結果に見られる特徴と現状>

算数 A(主として知識)について, 県, 全国の平均値より劣っている。領域では, 量と測定, 数量関係で特に劣っている。また, 最終問題では, 無回答率が高くなっている。

算数 B(主として活用)について, 県, 全国平均値より劣っている。特に記述式の問題では正答率が低く, 無回答率が高くなっている。情報を読み取り, 必要なことを選択し, 自分の考えを論理的にまとめて書く力が低い。

#### <児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

##### 生活習慣

全国平均や県の平均と比べて「朝食を毎日食べていない児童」・「毎日同じ時刻に眠っていない児童」が多い, 「学校の授業時間以外の勉強時間が少ない」ということから, 生活が不規則になっていることがある。

## チャレンジ力

「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」・「自分に良いところがあると思う」が低い。一方「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」が高い。自信がなく、自尊感情が低い児童がいる反面、物事を最後までやり遂げてうれしいことが高いので、学習についての達成感が持てるような授業を更に行っていくことが必要である。その積み重ねが、記述問題を、なんとか考えて答えを導き出す姿勢につながると考える。

## コミュニケーション力

「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意」は高い。学び合いを取り入れた授業を行っていることが、自己評価を高くする結果になったと考える。

## <改善目標・改善策> 各学年の実態に合わせて計画及び実施予定

### ① 学年の基礎学力の定着のために

- ・国語、算数の基礎基本が定着できるように朝自習の計画を再検討し、系統性のある内容のものを作成する。
- ・年に数回の基礎学力テストを行う。(国語(漢字)・算数)
- ・全ての教科で、自分の考えを説明したり、友だちの考えを聞いたりする活動を意図的に取り入れ、自分の考えを論理的に述べられるようにしていく。

### ② 記述力の向上のために

- ・スピーチメモ、日記、感想文を書き、自分の書いた物を多くの友だちに伝える。
- ・授業の最後に振り返りの時間を設け、感想などを書く。
- ・計算タイムの時間に、文章題の時間を設ける。
- ・週一回テーマを決めて短作文を書かせる。原稿用紙の使い方を確認する。
- ・算数では、自力解決の中で自分の考えをノートに書く習慣を低学年から継続して行っていく。
- ・国語では、朝の時間に文章や新聞記事を読み、自分の考えを○文字でまとめる。などの活動を行う。

### ③ 達成感を体験させ自尊心を高めるために

- ・一人一役の係や実行委員の経験をさせることにより、計画力、実践力、協力する力を身につけさせる。

### ④ 読書週間の定着

- ・音読が学習の中心になる授業を計画し、読むことができるようにする。
- ・図書室を利用し、多くの本を読み、思ったことや感じたことを話すことができるようにする。朝の会や帰りの会でみんなの前で発表時間を設け、話すことができるようにする。